

やまなし冬季国体における集団演技参加者の縦断的評価調査

高野 牧子 佐野 ゆかり

A Longitudinal Study on the Formative Evaluation of the Pupils Who Participated in the Massed Dance Performance in the 56th Winter National Athletic Meet at Yamanashi

In January 2001, the first Winter National Athletic Meet of 21st century was held at Yamanashi. At its opening, 121 elementary school children (the 6th grade) and 134 junior high school pupils (the 7th grade) participated in the massed dance performance after 8-months practice (from June 2000 to January 2001).

The purpose of this study is to clarify these pupils' formative evaluation of each dancing practice with questionnaire (adapted from Takahashi's, 1997²⁾) and with free description of their thoughts, and also to provide a guide to long-term dance education to pupils.

The main findings are as follows :

- 1) There is a period of lassitude halfway through the practice. In order to get over this lassitude, introduction of costume and the practice in the place intended as the stage of the performance are effective.
- 2) Pupils show great interest in mastering novel movements with performance properties such as sticks or large cloth.
- 3) Rhythmical bouncing actions such as jump or skip are favorably received, while actions and postures with low center of gravity are not welcomed by pupils.
- 4) In regard to the formation, dancing in circles or in pairs, which enhances communication among pupils, are preferred to lining up to make geometric patterns.
- 5) Sympathetic attitude of teachers is important even in the mass practice, and the application of the pupils' formative evaluation is effective to make them realize that both pupils and teachers cooperate for the success of the performance.
- 6) Pupils experience cooperative learning and associate with others of different grade, which is thought to be significant for children of today.

1. はじめに

2001年1月、21世紀初の冬季国体スケート大会が山梨で開催された。この開会式で、開催地である地元、富士吉田市立明見小学校6年生121名、および同市立明見中学校1年生134名が開会式の集団演技に出演した。この集団演技の企画構成は、山梨県女子体育連盟を主とするダンス経験および指導経験豊富な教員が国体委員として担当し、振り付け、指導にあたった。担当校の先生方と連携を取りながら、国体での発表にむけ、2000年6月から2001年1月の8ヶ月間の指導であった。

このような長期間に渡り、ダンスの指導を行う

機会は少なく、また、通常の体育授業ではない変則的な活動におけるダンスの形成的評価報告はなされていない。また、国体の集団演技に関する報告例も少なく、鈴木¹⁾による郷土芸能を織り込んだ集団演技の報告1件に留まっている。

子どもたちは国体に参加できるという機会に恵まれる一方、練習については多くの負担が予想される。そこで、国体の練習に関する子どもたちの形成的評価を縦断的に実施し、子どもたちがこれらの活動をどのように評価し、感じたかを明らかにし、長期間にわたってのダンス指導における指針を示すことを研究目的とする。

2. 研究方法

練習後、または練習日の翌日、質問紙配布回収によるアンケート調査を実施した。

調査対象：明見小学校6年児童 121名

(男子64名/女子57名)

明見中学校1年生徒 134名

(男子64名/女子70名)

調査期間：2000年6月29日～1月29日

予備調査 2000年6月29日～7月13日

(計4回)

本調査 2000年7月15日～2001年1月29日

上記期間に小学生は計14回、中学生は計10回の調査を実施したが、本稿では調査日が小学校、中学校ほぼ同時期であり、全クラスのデータがそろっていることを条件に、初回と本番終了後を含め、月に1回の割合で、表1に示した実施日を抽出し、全7回の調査データを研究対象とした。

調査項目は高橋²⁾によって標準化された「子どもによる形成的授業評価票」をもとに、表2のように4次元9項目から構成し、表3の評価票を作成した。3段階評価とし、各項目とも「はい」3点、「どちらでもない」2点、「いいえ」を1点として、平均値及び、標準偏差を算出した。

表1 研究対象調査日

	小学生	中学生
第1回	7/15	8/28
第2回	9/20	9/20
第3回	10/16	10/16
第4回	11/14	11/14
第5回	12/13	12/19
第6回	1/18	1/18
第7回	1/29	1/29

表2 授業評価項目

次元	項目
成果	1. 感動の体験
	2. 技能の伸び
	3. 新しい発見
意欲・関心	4. 精一杯の運動
	5. 楽しさの経験
学び方	6. 自主的学習
	7. めあてをもった学習
協力	8. なかよく学習
	9. 協力的学習

また、「わかりにくかったところ、もっと教えてほしいところ」と、「楽しかったところ、よかったところ」を具体的に自由記述させた。本番終了後の調査票は「練習」から「発表」に言葉を変え、発表して感じたことを自由記述させた。

3. 結果および考察

(1) 集団演技の内容

集団演技は、「きらめきの21世紀 幕開け」と題し、白銀に輝く霊峰、富士のもと、まさに21世紀が輝かしくきらめきに満ちた世紀になるようお願いを込め、創作した。

全体は、プロローグ、第1部、第2部、第3部と4つの大きな流れで構成されている。

プロローグは「21世紀の幕開け」とし、中学生が桃色の旗をひるがえして疾走し、春、桃の花で染まる山梨をイメージし、万物が息吹き、平和な心とみなぎる生命を表現した。

表3 形成的評価票

国体の練習についての調査		月 日 ()
小・中学校 年 組 番 名前 ()		
◎今日の国体の練習について質問します。下の1～9について、あなたははどう思いましたか。 当てはまるものに○をつけてください。		
1. 深く心にのこることや、感動することがありましたか	(はい ・ どちらでもない ・ いいえ)	
2. 今までできなかったこと(動きや隊形変化など)ができるようになりましたか	(はい ・ どちらでもない ・ いいえ)	
3. 「あつ、わかった!」とか「あつ、そうか」と思ったことがありましたか	(はい ・ どちらでもない ・ いいえ)	
4. 精一杯、全力をつくして練習することができましたか	(はい ・ どちらでもない ・ いいえ)	
5. 楽しかったですか	(はい ・ どちらでもない ・ いいえ)	
6. 自分から進んで練習することができましたか	(はい ・ どちらでもない ・ いいえ)	
7. 自分のめあてにむかって何回も練習できましたか	(はい ・ どちらでもない ・ いいえ)	
8. 友だちと協力して、なかよく練習できましたか	(はい ・ どちらでもない ・ いいえ)	
9. 友だちとお互いに教えたり、助けたりしましたか	(はい ・ どちらでもない ・ いいえ)	
◎わかりにくかったところ、もっと教えてほしいところを具体的に書いてください 		
◎楽しかったところ、よかったと思ったところを具体的に書いてください 		
また、一緒に練習しましょう!		

表4 集団演技の練習経過

月 日	小学校	中学校	場所	主な練習内容
2000年 7月15日 8月28日	9:30～11:30	13:30～15:30	小学校校庭 中学校体育館	第2部の動きの練習・衣装 プロローグ・第1部の練習 (棒の持ち方 基本動作)
9月20日	10:30～12:00	13:30～15:30	小学校校庭 中学校体育館	第2部の動きの修正 第1部の棒踊りの習熟
9月28日	10:30～12:00	13:30～15:30	小学校校庭 中学校体育館	第2部の動きの修正 第1部の棒踊りの習熟
10月5日	11:35～12:20	14:30～16:30	小学校校庭 中学校体育館	第3部の動きの練習 第1部の棒踊りの習熟
10月16日	10:30～12:00	13:30～15:30	小学校校庭 中学校体育館	第3部の練習 第3部の練習
10月26日	13:30～15:30	13:30～15:30	小学校校庭	小中合同練習① TV取材
11月10日	9:00～	11:30～	小学校校庭	小中合同練習②
11月14日	12:00～16:30	12:00～16:30	セイコオーバル	本番の場所での合同練習③
11月29日	12:00～16:30	12:00～16:00	セイコオーバル	式典演技合同練習④(教育長視察)
12月13日	12:00～	同左	セイコオーバル	小中合同練習⑤
12月19日	10:00～	9:00～	中学校校庭	小中合同練習⑥
2001年 1月18日	9:00～15:00	同左	セイコオーバル	式典全体の総合練習
1月23日	13:00～	同左	鐘山苑体育館	小中合同練習⑦
1月26日	10:00～12:00	同左	セイコオーバル	前日リハーサル
1月27日	9:00～	同左	セイコオーバル	本番

第1部は「かいじメモリー -受け継がれる力-」とし、同じく中学生が合戦をイメージして、二軍による勇壮な棒術を展開し、掛け声も勇ましく、勇気とチームワークを表現した。

続く、第2部「クリスタルファンタジー -結晶が拓く世界-」では、小学生が流れるような動きと隊形変化、カラフルなポンチョと布で、山梨の水晶や、雪と氷の美しく輝く結晶の世界を織り成した。

ここでは5メートル四方の薄く光沢のある布を使い、選手団の頭上を通したり、高く、大きく膨らませたりするのが見せ場となっている。

最後の第3部「パワー・オブ・ドリーム -明日へのはばたき-」では、若者の躍動、みなぎる力を、リズムにのって小学生・中学生が一緒に踊った。クライマックスでは、全員でスクラムを組み、夢に向かって力を結集し、21世紀にはばたく姿を表現した。

(2) 集団演技の練習経過

集団演技の練習経過を表4に示す。ただし、これは国体委員による指導日のみであり、この他に

体育の授業や学年での練習など、各校で取り組んだ。

(3) 評定平均値の推移

小学生の平均値推移は図1に示すように、初回は高かったものの、10月までは全項目において下降線を示すが、11月の会場での練習を機に上昇し、本番に向け、緩やかな上昇が続いていく。

これに対し、中学生の平均値推移を図2に示した。小学生同様、初回は高く、その後、10月までは、ほぼ横ばいが続く。11月の会場練習では小学生同様、上昇するが、12月は急に全項目、落ち込んでいる。しかし、1月には上昇に転じ、本番後は各項目、非常に高くなった。

なお、全平均値と標準偏差は表5に示した。

(4) 小学生の形成的評価各項目の特徴

①「成果」次元

「感動の体験」の項目は練習では各回ともに他項目に比べ、低い評価値であったが、第4回調査の本番会場での初練習から上昇に転じ、本番終了後はそれまでの中で最も高い評価となった。「技

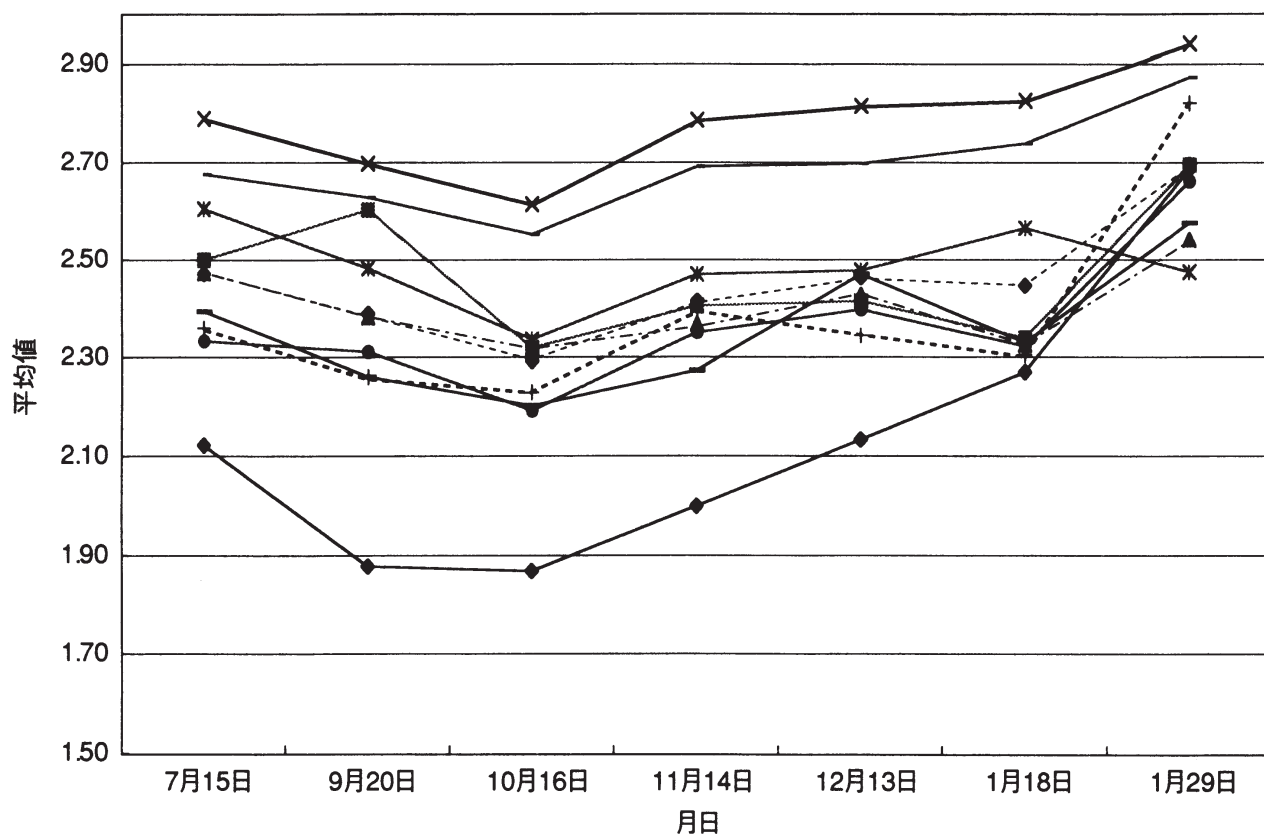


図1 小学生平均値推移

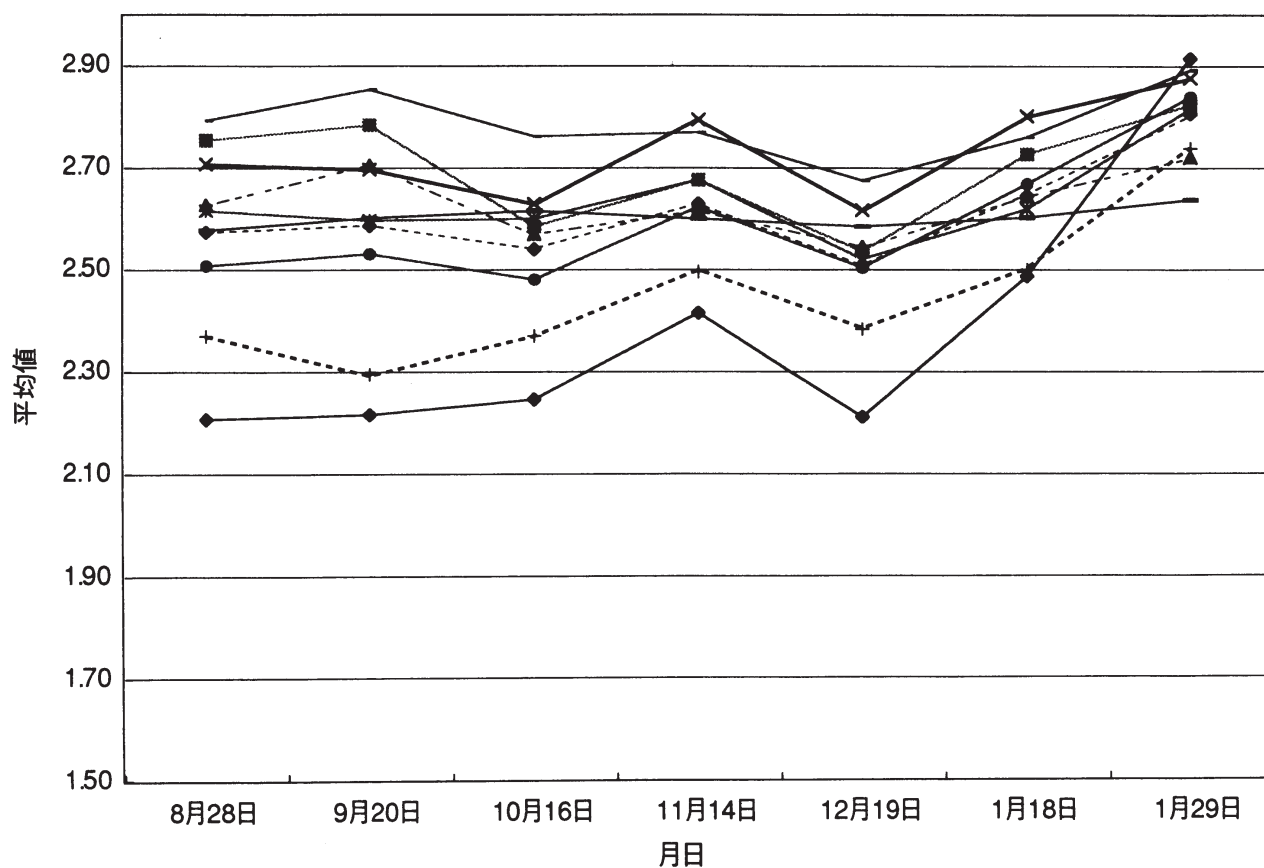


図2 中学生平均値推移

表5-1 小学生平均値及び標準偏差

		Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	平均
7月15日	全平均	2.12	2.50	2.47	2.79	2.61	2.33	2.36	2.68	2.39	2.47
	標準偏差	0.73	0.68	0.70	0.45	0.68	0.70	0.70	0.60	0.71	0.44
	男子平均	2.08	2.49	2.44	2.78	2.56	2.29	2.34	2.64	2.34	2.44
	女子平均	2.19	2.51	2.47	2.79	2.65	2.37	2.38	2.67	2.45	2.50
9月20日	全平均	1.88	2.60	2.38	2.70	2.48	2.31	2.26	2.63	2.26	2.39
	標準偏差	0.63	0.60	0.75	0.53	0.70	0.66	0.63	0.58	0.63	0.38
	男子平均	1.86	2.58	2.33	2.67	2.42	2.27	2.22	2.60	2.25	2.35
	女子平均	1.94	2.64	2.42	2.72	2.55	2.34	2.32	2.67	2.29	2.43
10月16日	全平均	1.87	2.32	2.32	2.61	2.34	2.19	2.23	2.55	2.20	2.29
	標準偏差	0.68	0.71	0.74	0.63	0.75	0.66	0.65	0.64	0.74	0.46
	男子平均	1.86	2.25	2.24	2.59	2.27	2.13	2.17	2.51	2.17	2.24
	女子平均	1.92	2.36	2.33	2.69	2.38	2.21	2.25	2.61	2.28	2.34
11月14日	全平均	2.00	2.41	2.37	2.79	2.47	2.35	2.40	2.69	2.27	2.42
	標準偏差	0.68	0.66	0.71	0.47	0.63	0.67	0.68	0.56	0.66	0.39
	男子平均	1.97	2.34	2.29	2.77	2.41	2.32	2.36	2.67	2.22	2.37
	女子平均	2.04	2.44	2.35	2.79	2.51	2.37	2.39	2.70	2.28	2.43
12月13日	全平均	2.13	2.42	2.43	2.82	2.48	2.40	2.34	2.70	2.47	2.46
	標準偏差	0.67	0.63	0.67	0.43	0.62	0.68	0.61	0.57	0.62	0.37
	男子平均	2.14	2.38	2.39	2.80	2.42	2.39	2.37	2.68	2.44	2.45
	女子平均	2.13	2.40	2.43	2.81	2.53	2.38	2.33	2.71	2.46	2.46
1月18日	全平均	2.27	2.34	2.32	2.83	2.57	2.32	2.30	2.74	2.33	2.45
	標準偏差	0.66	0.67	0.67	0.40	0.58	0.69	0.66	0.53	0.63	0.37
	男子平均	2.25	2.32	2.29	2.81	2.52	2.30	2.27	2.72	2.32	2.42
	女子平均	2.28	2.38	2.37	2.81	2.56	2.29	2.29	2.74	2.33	2.45
1月29日	全平均	2.69	2.69	2.54	2.94	2.47	2.66	2.82	2.87	2.58	2.70
	標準偏差	0.56	0.54	0.63	0.27	0.71	0.56	0.44	0.36	0.62	0.36
	男子平均	2.67	2.69	2.50	2.93	2.43	2.65	2.80	2.87	2.56	2.68
	女子平均	2.66	2.66	2.53	2.93	2.50	2.66	2.82	2.86	2.61	2.69

表5-2 中学生平均値及び標準偏差

		Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	平均
8月28日	全平均	2.24	2.62	2.87	2.70	2.82	2.66	2.38	2.85	2.65	2.64
	標準偏差	0.57	0.53	0.38	0.53	0.44	0.53	0.61	0.37	0.57	0.32
	男子平均	2.25	2.69	2.83	2.68	2.81	2.63	2.35	2.81	2.65	2.63
	女子平均	2.24	2.56	2.91	2.72	2.82	2.69	2.41	2.90	2.65	2.66
9月20日	全平均	2.22	2.78	2.71	2.70	2.60	2.53	2.29	2.85	2.60	2.59
	標準偏差	0.56	0.47	0.53	0.51	0.59	0.59	0.65	0.40	0.60	0.35
	男子平均	2.36	2.75	2.64	2.66	2.69	2.58	2.28	2.85	2.46	2.59
	女子平均	2.09	2.81	2.76	2.74	2.51	2.49	2.31	2.85	2.73	2.59
10月16日	全平均	2.25	2.58	2.57	2.63	2.60	2.48	2.37	2.76	2.62	2.54
	標準偏差	0.63	0.62	0.61	0.57	0.62	0.65	0.65	0.52	0.60	0.45
	男子平均	2.33	2.51	2.54	2.62	2.60	2.48	2.40	2.67	2.51	2.52
	女子平均	2.16	2.66	2.60	2.64	2.60	2.48	2.34	2.85	2.72	2.56
11月14日	全平均	2.42	2.68	2.62	2.80	2.68	2.62	2.50	2.77	2.60	2.63
	標準偏差	0.60	0.53	0.57	0.44	0.51	0.57	0.64	0.49	0.59	0.40
	男子平均	2.47	2.63	2.60	2.79	2.71	2.63	2.62	2.71	2.48	2.63
	女子平均	2.37	2.72	2.63	2.81	2.65	2.62	2.38	2.82	2.71	2.63
12月19日	全平均	2.21	2.54	2.54	2.62	2.52	2.50	2.38	2.67	2.59	2.51
	標準偏差	0.61	0.59	0.60	0.56	0.63	0.60	0.63	0.56	0.61	0.46
	男子平均	2.36	2.50	2.60	2.60	2.57	2.50	2.41	2.60	2.57	2.52
	女子平均	2.08	2.57	2.49	2.63	2.48	2.51	2.35	2.74	2.60	2.49
1月18日	全平均	2.49	2.73	2.64	2.80	2.62	2.67	2.50	2.76	2.60	2.65
	標準偏差	0.55	0.48	0.54	0.42	0.55	0.54	0.61	0.48	0.57	0.34
	男子平均	2.51	2.64	2.59	2.73	2.61	2.58	2.43	2.68	2.53	2.59
	女子平均	2.47	2.81	2.69	2.87	2.63	2.76	2.56	2.84	2.68	2.70
1月29日	全平均	2.92	2.82	2.72	2.88	2.82	2.84	2.74	2.89	2.64	2.81
	標準偏差	0.33	0.44	0.54	0.41	0.46	0.43	0.47	0.33	0.57	0.30
	男子平均	2.85	2.79	2.66	2.77	2.79	2.76	2.69	2.87	2.60	2.75
	女子平均	2.97	2.85	2.78	2.97	2.84	2.91	2.78	2.91	2.68	2.85

能の伸び」は初回に比べ、第2回調査では若干、高く評価している。この時期、運動会で国体の演技も部分発表したため、かなり練習し踊りこんだので、技能の確かな伸びを実感したのではないかと考えられる。しかし、その後、第3部など新しいパートを覚えていく活動に転じ、技能の伸びに対する評価が下がって横ばいで推移した。「新しい発見」はほぼ横ばいで推移している。

②「意欲・関心」次元

特に「精一杯の運動」は全調査で常に最高点の評価であり、小学生たちは毎回、精一杯、練習に取り組む、本番も大吹雪にも関わらず、意欲的に自分の力を存分に出して頑張ったと評価していることが伺える。

「楽しさの体験」は7月には高く評価していたにも関わらず、9月には下降し、以後、横ばいで推移し、本番後では唯一評価を下げた項目であった。やはり大雪による非常に厳しい寒さが大きく影響し、「楽しさ」の評価点を下げたと考えられる。

③「学び方」次元

「自主的学習」はほぼ横ばいで推移し、「めあてをもった学習」も同様であるが、本番後ではこの項目が急に高い評価を示した。小学生たちは、本番に向け、それぞれがめあてや目標を各自で持ち、発表に臨んだことが推測される。

④「協力」次元

特に「なかよく学習」は各回とも高い評価を示した。小学生が使用した大きな布は、みんなで息をそろえ、同じように動かさないと、成功しないので、友達と仲良く、気持ちをあわせて動いていこうとした点を高く評価していると考えられる。

(5) 中学生の形成的評価各項目の特徴

①「成果」次元

「感動の体験」項目が練習中は常に最低の値を示し、ほぼ横ばいで推移し、本番後のみ、項目の中で最も高い値を示した。従って、練習ではあまり感動し、心が動く経験は少なかったが、本番ではほとんどの生徒が感動したと考えられる。

「技能の伸び」と「新しい発見」の項目は、ほぼ横ばいで推移し、本番後が最も高い値であること

は同様である。

②「意欲・関心」次元

「精一杯の運動」では初回から次第に落ち込み、本番会場での初練習である11月では急に上がり、12月にはまた落ち込み、1月に再び上昇し、本番後では最高値を示し、推移はW型であった。「楽しさ体験」も同様の推移であった。11月は本番会場での初練習という空間的な要因が影響し、1月は本番直前の時間的な要因によって意欲が引き出されたと考えられる。

③「学び方」次元

「自主的学習」「めあてをもった学習」も同様のW型の推移であったが、この2項目については他項目より低い値での推移であった。練習は全体への一斉指導中心だったので、自主的な学習やめあてをもった学習にはなりにくかったと考えられる。

④「協力」次元

小学生と同様に「なかよく学習」が練習中も高い値で推移した。

(6) 自由記述件数の推移

練習期間における自由記述件数を表6に示す。「わかりにくかったところ・もっと教えてほしいところ」について書かれた自由記述内容は、「全体的な指摘」と「具体的な部分」「指導方法」「その他」「特になし」「無記入」の6つに分類した。

また「楽しかったところ・良かったところ」についての自由記述は、評定と同様の次元と項目で分類した。また文章中、複数の項目にわたって記述されている場合は、分けてカウントした。その結果、「学び方」に対する記述がほとんど見られなかった。国体での集団演技の指導は、全体での一斉指導中心に展開せざるを得ず、自主的・主体的な学習にはなりにくかったと考えられる。また、指導開始時に「今日のめあて」として指導者が言葉で示した点については、「技能の伸び」としての記述に反映していた。

① 小学生の自由記述件数

「わかりにくかったところ・もっと教えてほしいところ」について、小学生は第1回から第5回

表6 自由記述の記事件数(練習期間)

			第1回		第2回		第3回		第4回		第5回		第6回	
			小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
わかりにくかったところ・もっと教えてほしいところ	全体的な指摘		6	4	5	23	18	12	33	2	15	1	2	2
	具体的な部分		31	45	40	33	26	14	12	7	21	9	18	3
	指導方法		2	3	1	1	1	0	1	0	4	0	1	0
	小計		39	52	46	57	45	26	46	9	40	10	21	5
	その他		0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	0
	特になし		69	70	65	80	64	99	66	117	79	99	82	111
	未記入		4	8	4	0	5	5	4	4	6	7	9	4
	総計		112	130	115	137	114	28	118	33	126	36	113	49
楽しかった・良かったところ	総合		1	10	3	7	4	15	1	10	1	6	4	5
	成果	感動の体験	40	0	4	1	2	5	11	3	19	1	24	1
		技能の伸び	12	8	54	30	25	10	31	24	32	11	36	26
		新しい発見	2	12	1	7	2	12	0	0	1	1	7	0
	意欲・関心	精一杯の運動	0	1	0	2	1	7	2	4	3	3	6	9
		楽しさの体験	35	63	37	45	24	14	18	16	18	16	8	12
		その他	2	5	0	0	1	1	9	3	5	1	5	2
	学び方	自主的学習	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
		めあてをもった学習	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1
	協力	なかよく学習	0	2	1	5	1	0	0	8	5	4	3	2
		協力的学習	3	5	1	8	2	4	15	2	5	5	2	2
	教授法	教え方	14	23	3	12	4	3	0	1	1	2	2	0
	小計		110	129	104	117	66	71	88	72	90	52	97	60
	特になし		29	12	18	24	43	58	38	61	38	68	41	59
	未記入		2	2	1	2	2	5	3	3	5	6	0	5
総計			141	143	123	143	111	134	129	136	133	126	138	124

まで、記述件数はほぼ40前後あり、本番直前の第6回に21件と半減する。また「特になし」とする記述件数は第1回から第4回までは60台で推移し、第6回でも82件であった。つまり、積極的に質問を記述する児童が多く、それが12月まで維持されたと考えられる。

「楽しかったところ・良かったところ」については、第1回が110件と最も多く、第2回も100件を越す指摘があった。第3回は66件と急に減り、心配されたが、第4回の本番会場での練習を機に増えていく。第1回は「感動の体験」に関する記述が40件と最も多く、次に「楽しさの経験」が35件であった。第2回は「技能の伸び」に関する記述が54件と増えた。第3回も前回と同様に「技能の伸び」と「楽しさの経験」についての記述に集中していた。第4回では「協力的学習」に関する内容が増え、第5回、第6回ではいろいろな項目への記述の広がりがあった。

② 中学生の自由記述件数

「わかりにくかったところ・もっと教えてほし

いところ」について、中学生は第1回、第2回は50件を越し、小学生よりも多く、積極的に質問してくる姿勢が感じられる。しかし、第3回で26件と半減し、第4回以降、10件前後となり、直前は5件となった。これに呼応し、「特になし」と記述する生徒が第3回は99件、第4回には117件とほとんどの生徒が「特になし」と記述していた。

「楽しかったところ・良かったところ」について、中学生の記述件数は第1回の129件は小学生よりも記述件数が多いものの、第3回、第4回には約70件にまで減り、さらに第5回には51件と最低であり、第6回は60件とやや増加するが、全体として、記述件数は下降線を描いたと認められる。また「特になし」とする記述は、第3回から60名前後で推移している。

第3回の段階ではまだ習熟できている生徒は少なかったことを鑑みると、この頃から国体の練習にやや飽きがみられ、積極的に分からない所を質問していかうとする気持ちや練習が楽しいと感じることが減り、練習意欲がわかず、無関心になっていったことが推察される。

(7) 小学生の自由記述内容の推移

①第1回調査(7月15日)

振り付けは6月に国体委員がまず、小学校の担任の先生方たちへ教示し、それを6月末から担任の先生方たちによって子ども達へと指導していただいた。7月15日は、国体委員が子ども達を直接指導した最初の日であり、子ども達は第2部の踊りを概ね覚えた段階であった。

そこで、指導者は衣装と布を持参し、第2部全体のイメージをつかみ、興味・関心をもたせることと、振り付けが意図した動きのイメージを伝えることを主眼に指導した。例えば、横に手を開く動きは、国体に参加した皆さんに対して「氷の世界へようこそ」という意味がこめられていることを伝えた。動きの意味を子ども達に伝えることは子ども達自身が主体的に踊る上で重要であると考えたからである。

子ども達の「わかりにくかったところ・もっと教えてほしいところ」の自由記述では「ぶつかりそうになる(2件、以下数字は件数、1件は省略)」「もっと大きく踊りたい」といった空間に対しての全体的な指摘と、登場後に行う「ウェーブの動き(13)」「バルーンを膨らませるタイミング(5)」や「ジャンプのタイミング」「手を上げるタイミング」など、タイミングについての質問が目立つ。

「楽しかったところ・よかったところ」では「きれいな衣装でよかった(40)」「バルーンをふくらませるところ(26)」と、多くの子ども達が衣装や大きな布での演技について記述し、衣装や布での初めての演技が興味を抱かせ、関心を集めたことがわかる。さらに「よくでてくる動きの意味がわかってきて良かった(2)」と指導のねらいを受け止め、「指導者の教え方が良かった(13)」と、子ども達に指導が受け入れられていた。

②第2回調査(9月20日)

小学校では9月10日に運動会を実施し、組体操の演技の中に、国体の第2部のダンスも組み入れ、演技を行った。この運動会での演技を元に、国体の振付も見直し、3つの大きな修正を行った。

- 1) 登場後のウェーブの方法、2) リフトの断念、3) 6つの円から7つの円へ増加であった。

小学生は「わかりにくいところ」を「変わったところ(13)」と指摘し、また「ウェーブをもうちょっとよく教えて欲しい(3)」「ウェーブの組み

方(2)」「ウェーブをしゃがんでやるのか立ち座りでやるのか」「いつウェーブをしたらいいか」などウェーブについて、詳細で具体的な質問が寄せられた。

その一方、「楽しかったところ」で「変わった所がよくできた(5)」や「10人グループになって開く所がリフトのときより良くなった(2)」と変更点を評価し、「ウェーブが楽しい(6)」という記述も見られた。最も多かったのは「バルーンが初めてうまくふくらんだ(40)」とする技能の伸びに対する内容であり、「バルーンが楽しい(21)」と合わせ、大きな布での演技に対する記述件数はとても多く、大きな布の演技が子ども達の意欲や関心をつないでいると考えられる。

③第3回調査(10月16日)

9月末より第3部の演技練習を開始し、この日、初めて第2部、第3部と通して練習を行った。また第2部から第3部への移行では、当初、「自由に空いている空間で出会った誰とでも一緒に踊る」という子どもたちの自由裁量に任せた動きを予定していたが、実際にはできなかった。そこで、小学生と中学生はきちんとペアを決め、小学生が中心に集まり、中学生がペアの相手を迎えに行き、決まった場所で二人組みで踊るようにやむなく変更した。

小学生は「隊形移動のところをもっとくわしく教えてほしい(9)」「三角形になるところ(6)」と新しい部分の隊形移動について質問が多かった。また第2部の「クリスタルファンタジーを忘れていたので教えてほしい(7)」という意見もあり、いろいろ覚えて踊っていく負担が感じられる。他に様々な動きのタイミングの質問もあった。

バルーンについては「楽しい(15)」「ふくらむようになった(4)」など前回に比べ記述件数は減ったが、やはり大きな関心事であることは変わっていない。また「2部から3部まで通してできてよかった(4)」とし、「いままでできなかったところができた」「前、練習した時よりも動きがよくなったと思う」のように技能の伸びを実感するとともに、「スキップ(2)」「ジャンプ」など弾む動きに楽しさを感じ、「ノリノリでできた」という、心とからだを弾ませるダンスの特性に触れた記述も見られた。

④第4回調査(11月14日)

本番会場であるセイコオーバルでの初練習であり、位置取りや入退場の確認が指導のねらいであった。

広い会場で目印になるものがなく、「本番の場所で移動する位置がわからない(33)」と多くの子ども達が戸惑いを示した。一方、「本番で踊るところで初めて踊れてよかった(5)」と感じ、「会場がよかった、もっとしたい(2)」という記述から、会場を初めて見た感動が練習意欲につながる事が推測できた。また「現地へ行って場所がわかってよかった(6)」 「隊形移動の位置がわかった(4)」 「入場の場所が前よりもわかりやすくてよかった」など、指導のねらいを受けて、子どもたち自身が空間を確認できたと考えられる。

またこの回は「中学生と協力できてよかった(6)」 「中学生とできた(5)」と中学生との協力についての記述が多いのも特徴的であった。

⑤第5回調査(12月13日)

3回目の本番会場での練習であった。また、前回の練習で問題になった会場の入退場や隊形移動が間に合うように、音楽を少し伸ばすよう再編集し、練習に臨んだ。他の変更点は、最後のポーズで小・中学生が混在する密集した群になって終わるという案もなかなかできず、クラス単位で位置取りを明確にせざるを得なかった。また、本番での衣装が整い、本番最後に上げる大型クラッカーの効果も試し打ちすることとした。

前回より件数が減ったものの、まだ「隊形移動の位置がわからない(14)」と記述が多く、また変更のあった「第3部の最初(3)」や「最後の部分(2)」など変更点がわかりにくく、「ちょっと変える時をもっと早くしてほしかった」と率直な意見がみられた。

その一方、変更点について「曲が長くなってよかった(4)」 「ウェーブが間に合うようになってよかった」と変更に納得し、改善されたと評価している記述もあった。また、「本番の衣装を着てやってよかった (14)」や「クラッカーがすごかった(4)」と本番に向け、衣装や効果によって練習意欲が湧く様子が伺える。また、バルーンに対する記述は相変わらず多く、「バルーンがよくできてよかった(10)」や「バルーンが楽しい(10)」など、第2部のクライマックスでのバルーンの演技に小学

生たちが力を注いでいることが推察される。

さらに踊りこみの段階に入り、「クリスタルファンタジーはとてもよくできて自分でもよしと思った(2)」のように演技に自信が出てきた。また「手がちゃんと伸ばせた」「ちゃんとみんな跳ねていた」などしっかりできるようになった演技を技能の伸びとして捉えていた。

また前回同様、「中学生と仲良くできた(5)」 「前より中学生と息が合うようになった(2)」 「みんなと協力してやったこと(3)」 など協力して一緒に頑張っていることを良かった点としてあげていた。

⑥第6回調査(1月18日)

総合練習日であり、出演する他の団体も参加し、本番会場で最終的なリハーサルを行った。

会場の都合で退場の方向が急遽変更になり、「退場のところ(2)」 「退場の方向が変わった、もっと早く教えてほしかった」と当然の不満があった。直前の練習なので、「足のでかたや手の角度がまだよくわからなかった」「手がピンとならなかった」と動きの細部について意識があり、「あとは一つ一つの動きをはっきりさせればよいと思う」と述べている。

総合練習について「いつもと違って緊張した、ドキドキした(7)」 「たくさんの方がいてびっくりした」と感じていた。他の団体の演技について、「鼓隊がすごかった、そろっていた(6)」 「歌の人がきれいな声だった」とその完成度に感心し、「他の学校の人たちも一生懸命頑張っていた」「他の人たちもいっぱい練習したんだな」と触発され、「自分達の演技を比べるとまだまだ、だめだと思った」と厳しく自己評価するものもいた。また「他の人たちもたくさん練習したということがわかり、すばらしい国体ができると思います」と意欲を述べたものもあった。このように他校の演技を見ることは、本番に向けての意欲を引き起こすのに有効であったと思われる。

記述件数の中で最も多かったのは「バルーンがよくできてよかった(18)」であり、バルーンを成功させたいという目標はそのまま持続している。また「手や足の動きがうまくできた」「手がちゃんと伸ばせた」と身体部位を意識し、「しっかりできてよかった(4)」 「いつもよりちゃんとできた(2)」 「前よりも踊りがのびのびとできるようになった」

「最後のポーズがきまった」と技能の伸びを評価していた。

さらに新聞の一面にこの練習が写真付きで大きく取り上げられたことも大きな励みになったようである。そして「誰かに見られていると思ったら、やる気が出てきた」「本番はもっとうまくできるようにしたい(2)」「残り少ない時間を無駄にしないように頑張りたい、本番は成功させたいと思う」と本番に向けていよいよ意欲も高まった。

以上より、練習中では全体として、小学生は細かい技術的な部分に対して、とても具体的に質問をしている記述が多く、積極的に関わり、自ら課題を明確にして取り組んでいる姿勢が多く見られた。また変更点についても理解し、よくなったと評価し、受け入れている。また、衣装や大きな布を使った演技は興味や関心を引き出し、技能の伸びを感じながら、取り組んでいたことが推測される。また本番会場での練習は停滞感を一新すると共に、他校の演技を鑑賞することは自省と共に、意欲を引き出したと思われる。

(8) 中学生の自由記述内容の推移

中学生は各クラスから国体実行委員を選抜し、その生徒たちが中心になって行うようにした。はじめに第3部の踊りをこの国体実行委員が覚え、9月に文化祭で発表した。全体への指導は8月末より第1部の棒を使った踊りの指導から開始し、その後、最初の入場であるプロローグや小学生と一緒に踊る第3部の練習へと展開した。

①第1回調査(8月28日)

初回は合戦をイメージした棒を使ったダンスが好評で、「初めて棒を使って意外に楽しかった(2)」「棒一本だけであんな演技ができると思わなかった」など、新しく発見し、未知のことへ挑戦する記述が特徴である。また、薙刀の型を基本とした棒を使った動きは、剣道やちゃんばらを連想させ、「棒を持って踊ったことが楽しい(13)」や「面・面・すね・すねが楽しい(13)」と評価する生徒が多かった。さらに「教える先生が楽しかった(10)」「すごくわかりやすかった(10)」と指導者に対する記述件数が多く、豊富な指導歴をもつ指導者によって、順調な滑り出しであったと考えられる。

また、わかりにくかったところ・もっと教えて欲しいところに対する記述は、初回が最も多い。「二人で面とかすねを打つところがわかりにくい(15)」「風車という技での棒の回し方を教えてほしい(7)」など、薙刀の型を基本とした新しい動きや技を習得しようとする積極的な姿勢が感じられる。

②第2回(9月20日)

第1部の動きの練習と赤・黒2軍に分かれての群構成による隊形移動が主な練習のねらいであった。

中学生は「隊形変化・隊形移動がわかりにくかった(10)」「赤と黒に分かれるところがパニックになってわからなくなる(3)」など、難しい隊形変化への質問が多かった。また「面やすねを受けるところをもっと詳しく教えてほしい(8)」と技にたいする指摘もあった。

その一方、楽しかったところにも「面やすねを打つところ(5)」や「面やすねができるようになってよかった(3)」など棒での演技が記述されている。また「明輝祭(文化祭)などがあって、この前練習したことを忘れていたけど、今日1日で思い出せてよかった」など、学校行事との両立で、しばらく国体の練習から離れていたことがわかる。

③第3回(10月16日)

第3部の練習も始め、プロローグ部分の初練習日となった。

プロローグは旗を掲げて走る動きが主であるが、「移動が少しわからない(6)」と理解に手間取る生徒がいる反面、楽しかったところとして「新しく練習したプロローグ(7)」「新しいところってきた(3)」と、好意的な意見の方が多い。またプロローグで使用するピンクの吹流しを「旗がきれい(3)」「ピンクの旗がかわいい」などと評している。さらに「全部よかった・全体的によかった(9)」と総合的な意見が多い。具体的な意見としては「第3部の踊り(3)」や「最後のジャンプ」など弾む動き、「二人一組になるところ(2)」「円の隊形」などお互いの顔が見えたり、触れ合えたりする隊形の方が縦1列のような隊形よりも楽しいと好まれている。

④第4回(11月14日)

本番会場での初練習で、「初めてセイコーボールでやって楽しかった(7)」「すごく広くてびっくりした(2)」「広いところでのびのびと踊れた」といったように、会場を肯定的に捉えた感想が多く、位置取りに関する質問は2件に留まった。小学生が会場の広さに戸惑い、位置取りがわかりにくいという感想が33件と多かったのに比べ、対照的であった。この段階では実際には位置取りが全くできていない状態であったことを鑑みると、問題や課題を積極的に自分から問い掛けていく姿勢は小学生の方が強いように思われる。

大きな声を出せなくて、繰り返し指導を受けていたので、「声を出した所(5)」「やあとと言った時はみんな気合いが入っていてよかった」としていたが、大きな声を出すことはなかなか難しい様子で、この後も指導を重ねた。

一方「小学生とやった第3部が面白かった(2)」「小学生と一緒によかった(2)」と学校を越え、学年を超えた交流がよいと中学生も挙げていた。

⑤第5回(12月19日)

全体に記述件数が減っている中、「第3部が楽しい・面白い(6)」が最も多い記述件数で、他に「6年生とペアになるところが楽しかった(2)」「6年生と一緒に回るところ」など、小学生と一緒に踊る部分に楽しさを感じていた。「動きが早くなった(2)」「できなかったところができるようになった」など技能の伸びを確認しつつ、「やりきったという満足感(達成感)があってとってもよかった」や「だんだんみんなが1つにまとまってきた所」という感想から、本番に向けての意欲が感じ取れた。しかし、記述件数が少ない点からみて、全体としてはやや国体練習への意欲が低下していると考えられる。

⑥第6回(1月18日)

総合練習では大勢の参加者がいることに対し、「こんなにいっぱいの人がいってびっくりした」と驚き、「本番のような感じでたくさんの方の前で演技ができて楽しかった」と発表の楽しさを感じている。また「当日の動きがわかってよかった」「流れがちゃんとわかったのでよかった」と、本番の様子をイメージ出来たことが読み取れる。最も多かった記述は「声がよく出てよかった(17)」で

あり、音楽など他の教科でも声出しの練習をした成果を技能の伸びとして感じていた。また「精一杯、頑張った(3)」「みんな頑張っていた(2)」「今までで一番、自分が真剣にできた」など、本番を直前に控え、ようやく本気になって懸命に取り組み出したことが感じられる。

以上より、中学生は練習初期、棒を使った動きや技に興味を持ち、熱心に取り組んだが、10月には停滞期を向えた。しかし旗や発表会場での練習が活力となり、本番が近づくにつれ、練習成果を感じながら、精一杯、真剣に取り組んだと考えられる。

(9)本番終了後の自由記述内容

①小学生の自由記述

自由な感想で記述件数が多かった項目は「感動の体験」であった。「演技がうまくできてよかった、成功してよかった(24)」など、演技の成功感が強い。また大舞台での発表だったので、「とても緊張した(12)」中で、「山梨県の代表として踊れて本当によかった(3)」と代表としての責任を感じている児童もいた。また「国体に出られてよかった(11)」や「国体はめったに出られないので一生の思い出になった(8)」と国体での演技発表という機会を一生の大切な思い出と考えた児童も多い。その一方、記録的な大雪の中での発表だったので、「雪が降り、寒くてとてもつらかった、大変だった(35)」とする意見が非常に多かった。

この寒さと雪は演技に大きく影響し、「技能の伸び」について最も多かった感想は「布の上に雪が積もり、うまく布が上がらなかった、膨らまなくて悔しい(30)」であった。大きな布を膨らませる演技が第2部のクライマックスの見せ場であり、それを子どもたちが十分意識して、何度も練習を積み重ね、常に完璧に膨らむようになっていただけに、残念で悔しい気持ちが強かったと考えられる。また第2部から第3部への移行時に手袋をはめるのだが、「手が冷たすぎて手袋がうまくつけられなかった(25)」や、「隊形移動の時のしるしが消えてしまい大変だった(11)」と想定外の大雪と寒さの中、本当に苦労しながら、演技をしたことがわかる。こうした悪条件であっても「7ヶ月間やってきたことが本番で出せたと思う(8)」と述べ、「寒かったが手が良くあがった」や「入場

する時、滑って転ぶ人もいたので、転ばないように注意しながらやった」[足場が悪かったけど、隊形移動やバルーンを持っていく時、間に合ってた]と寒さや雪に負けず、懸命に頑張った様子が感じられる。さらに「手を横にちゃんと広げて走って入場した(3)」や「手を伸ばすところはピッと伸ばすことを意識した」「走って移動する時は走って、練習の時よりもいろいろな事を考えて、目標をつくった」と指導のポイントを元に、自分の身体を意識して、主体的に目標を持ち、踊っていたことが読み取れた。

「新しい発見」の項目の記述件数は少なかったが、内省に関する記述が目立つ。例えば「初めは国体なんて何でやるのとぶつぶつ言ってたけど、国体をやって本当によかったって心の中で変わった気がした」「自分がこんなに頑張れる人だとは思わなかった、自分が変わったと思った」「今まで7ヶ月近く練習して、そのすばらしさがわかったような気がする」と心の成長を述べていた。また「だらだらやらないで、ちゃんとキビキビ踊れば、きれいな演技になるんだということがわかった」と動き方の意識改革もあったようだ。

「意欲・関心」次元では「精一杯の運動」についての記述が多く、「雪が降り、すごく寒かったけど、みんな精一杯、頑張った(17)」[全力をつくし踊った(5)]などが多かった。「観客がたくさんいたので、やる気が出た」「本番は県の代表として頑張ろうと思った」と国体の開会式という場が意欲を掻き立て「お客さんが感動するような演技を精一杯、頑張った」としていた。さらに練習を振り返り「7ヶ月間、毎日のように練習してきてその最後で一生懸命やってよかった(2)」[約7ヶ月間、一生懸命、練習してきた]という記述もあった。「楽しさの体験」は「楽しかった」という記述件数が8件に留まり、少なかった。

「協力」の項目も7件と少ないが、その中で3件が中学生と仲良くできたことを評価した内容であり、異年齢での交流は心に残ったようだ。

「教授法」は21件で、「ありがとう」と指導に対する感謝を書いたものであり、特に「僕のことをとても早く覚えてくれて嬉しかった」「温かく見守ってくれた」など共感的な態度が挙げられていた。

②中学生の自由記述

最も多い項目は小学生と同様に「感動の体験」で123件であった。「一生の思い出、最高の思い出になった(22)」とし、「国体に参加できてよかった(12)」と述べていた。また「最後の方では今まで頑張ってきたことや思ってきたことが、みんな混ざって感動として私の身にしみた」「全部終わったとき、嬉しさと悲しみが込み上げてきて思わず涙が出た」など感動を雄弁に語った記述も含め「感動した 感動が忘れられない(15)」と多かった。大雪の中での演技だっただけに「達成感でいっぱい(9)」や「満足感、充実感でいっぱい(4)」[終わったときの爽快感や達成感は格別のものだった]など、やり遂げた喜びが多く記述されていた。その一方、「大雪の中、大変だった、寒かった、痛かった(36)」と痛いほどの厳しい寒さは辛かったようだ。

「技能の伸び」について、最も記述が多かったのは「雪が積もって走りにくかった、手が凍えてやりにくかった(43)」といった内容の記述であった。これに対し、肯定的な評価もほぼ同数あり、「ずっとやってきた練習の成果が出せた、発揮した(21)」[今までで一番いい演技になった、最高の演技になった(10)]など、約半年の練習の成果を評価したものがあつた。また「1部は自分の課題である目線に気をつけてやった。3部は途中、一番前になり、ちゃんとポイントにそって並べた」など、自分で課題を決め、演じたという記述もあり、小学生と同様である。また「できなかった膝が曲げられた」「最初は忍び足などができなかった。でも練習していくうちに頑張れた」などの記述にみるように、膝を曲げ、重心を低くする動きは苦手で、指導も苦労した。さらに「この国体を通じて、団体としても個人としても成長することができ、本当によかった」と客観的な立場からの記述もあった。

「新しい発見」では「できなかった一つの課題でも頑張って練習して乗り越えれば、感動を生み出せるんだということを感じた」と練習と努力の重要さに気づき、「踊っている途中、自分達はかっこいいと思った」という気づきもあった。

「精一杯の運動」の項目では「精一杯、頑張ることができた(11)」が最も多く、「この貴重な経験を活かして今後に役立てたい、今後も頑張りたい(4)」と将来に向けての意見もあった。また「最初

の頃はあまりやる気がしなかったけど、本番が近づくにつれ、国体を成功させようという気持ちが高まった」など1月に入り、本番が迫るにつれ、意欲が高まってきたという同様の意見も特徴であった。

「楽しさの経験」は28件と小学生より件数が多く、「楽しかった、すごい楽しい1日だった(12)」[やっていると寒いより、楽しくなっていて、やってよかったと本当に思った(4)]などがあった。悪天候で開会式での演技が危ぶまれたが、これまでの練習を鑑みて、ぜひ発表させたいと考え、挙行した国体関係者にとって、この感想は実にほっとするものである。

「協力」は4件と少ないが、「3部の時、手が麻痺してしまい、手袋ができず、友達にやってもらって、なんとかつけられた。このようにみんなでやって、自分達にしかわからない何かを感じ取れた気がする」と困難な状況での助け合い、思いやる気持ちを述べている生徒もいた。

「教授法」は17件で小学生と同様に、指導への感謝が述べられていた。特に「自分のところに先生が来て、できない所を教えてくれた」のように一斉指導であっても、個別に指導をした点や「誉められた時、よかったよと言われた時、嬉しかった(3)」[先生にできるじゃない、上手だねと言われたりすると、もっとやってみようかなという気持ちになった]など、指導者の共感的な態度がよかったとしていた。

4. まとめ

小学生は10月に停滞期を迎え、評定・自由記述件数ともに最低値を示したが、11月の本番会場での練習を機に、本番に向けて意欲が高まっていった。

これに対し、中学生は停滞期が10月から12月までと長く、1月の直前になってから急激に意欲が高まっていった。しかし、11月の本番会場での練習では評定は高く、「技能の伸び」に対する記述件数が増え、長期間に及ぶ練習の停滞感は練習場所や衣装をつけるなどの工夫により改善される傾向が見られた。

さらに自由記述を詳細にみると、大きな布を使った演技や棒を使った演技など、新しい動きへの挑戦は子ども達が興味・関心をもち、挑戦していく意欲を出すよい題材であったと考えられる。

また、リズムにのって「ジャンプ」や「スキップ」など弾む動きは好まれる傾向があり、「膝を曲げる」「腰をかがめ低い姿勢になる」などの重心を下げる動きや、「大きな声を出す」などは苦手でなかなかできなかった。

隊形はお互いが見える内向き円や小学生と中学生が一緒に触れ合うような二人組み隊形が好まれていた。つまり、列に並ぶなど幾何学的な隊形を作るよりは、人間同士のコミュニケーションがある方を好んでいるといえよう。しかし、「自由に空いている空間で出会った誰とでも一緒に踊る」という自由裁量に任せた動きはできなかった。また最後のポーズで密集して終わるというのなかなかできず、位置取りを明確にせざるを得なかった。子どもたちは隊形に並び、教えられた動きを真似することはできても、自分の判断で自分の好きな所で自分の好きなように体を動かすことは不得手であり、今後の舞踊教育における課題であると考えられる。

指導法においては、一斉指導にならざるを得ないが、「誉められて嬉しかった」「一人一人丁寧に教えてくれた」「名前を早くから覚えてくれた」など、指導者の共感的な態度は重要であった。また、一方的に教え込んでいくのではなく、子ども達からの意見を聞くようにし、教師と子ども達の双方で作り上げていく喜びを感じるために、今回の調査のような形成的評価は有効であると考えられる。

また、異年齢集団での交流と協力的学習は大きな成果であったと思う。また、自由記述中には見られなかったが、障害をもった児童・生徒も今回は一緒に参加出場し、子ども同士で非常によく助け合い、協力して練習し、本番も頑張っていたことを最後に付記しておきたい。

今後、このような指導にあたっては、下記の点に留意すべきである

1. 長期間の練習に伴う停滞感を転換するには、衣装・装置・会場での練習などが、有効である
2. 題材は経験したことのないような道具を用い、新しい動きへの挑戦で興味関心を持たせる
3. 軽快な弾む動きを入れる
4. コミュニケーションのある隊形
5. 共感的態度の指導法と子どもの形成的評価の

活用

6. 異年齢集団での交流と協力的学習

本番は記録的な豪雪と寒さの中での演技であったが、多くの子どもが「寒かったが、やってよかった」「感動した」「一生の思い出になった」と記述していた。子どもにとって、国体の集団演技への参加は、練習も多く、また期間も長いため、途中、練習意欲が停滞し、他の学校行事とも重なり、時間的・精神的にも負担ではある。しかし、こうした困難を越えて、やり遂げた達成感・成功感や、精一杯努力する姿勢を学んだことは将来に向けて大きな教育的効果を得たと考えられる。

謝辞 集団演技に参加された児童・生徒のみなさん、並びにご指導いただいた明見小学校、明見中学校の先生方、ご協力いただきましてありがとうございました。また共に企画構成し、指導にあ

たった山梨県女子体育連盟の飯島國子先生、上野栄子先生、岡部和子先生、清水明美先生に心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 鈴木裕美子(1998)地域素材をテーマにしたダンスの創作過程、日本体育学会第49回大会号、p.612
- 2) 高橋健夫(1997)体育の授業成果を高める学習指導スタイルに関する実証的研究、平成7・8年度文部省科学研究費(基盤研究B)研究成果報告書、pp.21-59
- 3) 高橋健夫(1999)よい体育授業の条件に関する実証的研究－計画・過程・成果の総合的分析を通して－、平成9・10年度 文部省科学研究費(基盤研究B)研究成果報告書、pp.1-15